

令和7年度 シラバス

科目名	臨床心理学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	金島 理恵
到達目標	心理的問題・不適応行動の改善援助のために用いられる様々なアプローチ法についての基礎的知識を身につける				
履修上の注意	講義内容の理解を深めるために受講生による発表の時間を設けることがあります				
成績評価方法	学科試験(70%)・小テスト(30%)				
教科書	リハベーシック 心理学・臨床心理学 医歯薬出版				
参考書	あればその都度紹介します				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	イントロダクション	臨床心理学とは
第2回目	心理検査(1)	アセスメントとは
第3回目	心理検査(2)	人格検査、発達検査、知能検査
第4回目	心理検査(3)	人格検査、発達検査、知能検査
第5回目	心理検査(4)	神経心理学的検査
第6回目	心理検査(5)	心理検査まとめ
第7回目	心理療法(1)	精神分析、分析心理学
第8回目	心理療法(2)	精神分析、分析心理学
第9回目	心理療法(3)	クライエント中心療法
第10回目	心理療法(4)	行動療法、認知行動療法
第11回目	心理療法(5)	森田療法、内観療法
第12回目	心理療法(6)	遊戯療法、自律訓練法、集団療法
第13回目	傷害受容	傷害受容
第14回目	心理療法(7)	心理療法まとめ
第15回目	まとめ	第1週目～第14週目の振り返り
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	神経内科学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	和手 麗香
到達目標	神経内科疾患の病態生理・症状・治療を理解する。				
履修上の注意	復習は各自行うこと。教科書と配布プリントを授業に持ってくること。				
成績評価方法	試験(100%)				
教科書	神経内科学テキスト(南江堂)				
参考書	特になし				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	総論1	神経内科総論
第2回目	総論2	中枢の解剖
第3回目	総論3	診断学 ①
第4回目	総論4	診断学 ②
第5回目	総論5	検査 ①
第6回目	総論6	検査 ②
第7回目	各論1	脳血管障害 ①
第8回目	各論2	脳血管障害 ②
第9回目	各論3	神経変性疾患
第10回目	各論4	脱髄疾患
第11回目	各論5	末梢神経疾患
第12回目	各論6	筋疾患、神経筋接合部疾患
第13回目	各論7	全身疾患に伴う神経障害、中毒
第14回目	各論8	機能性疾患、認知症
第15回目	まとめ	第1回目～14回まとめ
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	小児科学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	林 健二
実務経験	理学療法士として15年以上の実務経験あり				
到達目標	1. 正常小児の成長発達を理解する。 2. 未熟児、新生児の病態を理解する。 3. 小児疾患の特性および病態を理解する。 4. 重症心身障害児の特性と療育について理解する。				
履修上の注意	授業の出席				
成績評価方法	筆記試験100%(小テスト30%)				
教科書	病気がみえる15 小児科				
参考書	無し				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	オリエンテーション・総論	発達と小児福祉・保健
第2回目	遺伝子と遺伝子疾患	先天異常・染色体異常・代謝異常
第3回目	内分泌疾患	内分泌疾患
第4回目	免疫系疾患	免疫不全・膠原病
第5回目	国試対策①	国試対策・復習①
第6回目	感染症	小児感染症
第7回目	呼吸器疾患	呼吸器疾患
第8回目	循環器疾患	循環器・血液・腫瘍
第9回目	国試対策②	国試対策・復習②
第10回目	神経疾患	神経疾患
第11回目	骨関節疾患	骨関節疾患
第12回目	筋疾患	筋疾患
第13回目	精神発達	精神疾患・発達障害
第14回目	ケーススタディ	ケーススタディ
第15回目	国試対策③	国試対策・復習③
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	脳神経外科学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	和手 麗香
到達目標	脳神経外科疾患の病態生理・症状・治療を理解する。				
履修上の注意	復習は各自行うこと。教科書と配布プリントを授業に持ってくること。				
成績評価方法	試験(100%)				
教科書	標準脳神経外科学(医学書院)				
参考書	特になし				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	総論1	脳神経外科総論
第2回目	総論2	解剖、症候学
第3回目	総論3	検査
第4回目	総論4	症候学
第5回目	各論1	脳腫瘍 ①
第6回目	各論2	脳腫瘍 ②
第7回目	各論3	脳血管障害 ①
第8回目	各論4	脳血管障害 ②
第9回目	各論5	頭部外傷
第10回目	各論6	先天奇形
第11回目	各論7	神経皮膚症候群、水頭症、機能的脳神経外科
第12回目	各論8	脊髄疾患
第13回目	各論9	末梢神経疾患
第14回目	各論10	感染症
第15回目	まとめ	1回目～14回まとめ
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	リハビリテーション特論 (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	吉田 峻
実務経験	金島 理恵 :理学療法士として15年以上の実務経験あり 鎌田 啓太 :理学療法士として5年以上の実務経験あり 久保 けい子:理学療法士として13年以上の実務経験あり 丹野 晴臣 :理学療法士として 7年以上の実務経験あり 橋本 貴之 :理学療法士として14年以上の実務経験あり 林 健二 :理学療法士として13年以上の実務経験あり 安田 美紀 :理学療法士として11年以上の実務経験あり 山中 克也 :理学療法士として17年以上の実務経験あり 吉田 峻 :理学療法士として14年以上の実務経験あり				
到達目標	栄養、薬理、医用画像、救急救命及び予防の基礎について学ぶ				
履修上の注意	臨床及び国家試験に直結した内容として緊張感を持って臨むこと				
成績評価方法	学科試験、小テストを含めた総合評価				
教科書	特になし				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	画像診断(内部疾患)	内部疾患の画像理解
第2回目	画像診断(中枢神経疾患)①	中枢神経疾患の画像理解①
第3回目	画像診断(中枢神経疾患)②	中枢神経疾患の画像理解②
第4回目	画像診断(整形外科)①	整形外科疾患の画像理解①
第5回目	画像診断(整形外科)①	整形外科疾患の画像理解①
第6回目	薬理	薬の作用、副作用
第7回目	臨床検査	血液データ/検査データの読み方
第8回目	予防医学①	一次～三次予防について
第9回目	予防医学②	予防医学とリハビリテーション
第10回目	感染症対策	院内感染対策・衛生管理マニュアル
第11回目	栄養学	3大栄養素・栄養と代謝
第12回目	排痰と吸引 ①	排痰手技とスクイーピングについて
第13回目	排痰と吸引 ②	喀痰吸飲について(口腔内・鼻腔内吸引)
第14回目	救命救急	一次救命処置・心肺蘇生とAED
第15回目	まとめ	各章のまとめ
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅲ (30)時間	前期	第1学科2学年	講 師	丹野 晴臣
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり				
到達目標	神経学的検査の理解と実技の習得				
履修上の注意	実技を行う場合は実習着を着用しておくこと				
成績評価方法	学科試験100%(出席、欠席状況により加点、減点有り)				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫)				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	腱反射・病的反射 ①	腱反射・表在反射・病的反射
第2回目	腱反射・病的反射 ②	腱反射・表在反射・病的反射 演習
第3回目	感覚検査 ①	表在感覚、深部感覚、複合感覚
第4回目	感覚検査 ②	表在感覚、深部感覚、複合感覚 演習
第5回目	脳神経検査 ①	嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、三叉神経、外転神経
第6回目	脳神経検査 ②	顔面神経、聴神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経
第7回目	確認試験	1回目～6回目確認試験
第8回目	小脳機能 ①	運動失調
第9回目	小脳機能 ②	小脳障害
第10回目	運動機能 ①	不随意運動、筋緊張、受動運動による徴候
第11回目	運動機能 ②	歩行の異常、検査
第12回目	痛みの評価	疼痛の検査、VAS
第13回目	精神状態の評価	意識障害、認知機能
第14回目	運動麻痺の検査	運動麻痺、片麻痺
第15回目	不随意運動 期末試験の説明	不随意運動とは、期末試験範囲の説明
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅳ (30/30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	林 健二
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり				
到達目標	運動器に発生する障害を理解し、適切な検査項目を挙げ、その意味・意義を理解して実施できること				
履修上の注意	実技は少しでも多くの人を対象に繰り返し練習すること。				
成績評価方法	実技試験(50%)、筆記試験(50%)				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫) 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(中山書店)				
参考書	随時プリント配布				

回 数	項 目	授 業 内 容
第1回目	オリエンテーション・ 整形外科と痛みの評価	整形外科検査の意義と疼痛、痛みの評価 医療面接
第2回目	整形外科検査 実技	頸部/胸郭出口症候群・体幹
第3回目	整形外科検査 実技	肩
第4回目	整形外科検査 実技	肩・肘・手
第5回目	整形外科検査 実技	股・膝
第6回目	整形外科検査 実技	膝・足
第7回目	国試対策・動作障害の理解	国試対策・動作障害の理解
第8回目	異常パターンの理解①	背臥位・寝返り動作の異常パターン理解と模倣
第9回目	異常パターンの理解②	側臥位・起き上がり動作の異常パターンの模倣と介助
第10回目	異常パターンの理解③	座位・立ち上がり動作の異常パターンの模倣と介助
第11回目	異常パターンの理解④	立位・歩行動作の異常パターンの模倣と介助
第12回目	異常パターンの理解⑤	立位・歩行動作の異常パターンの模倣と介助
第13回目	ADL動作の理解	ADL動作の理解と体験
第14回目	ADL動作の理解	ADL動作の理解と体験2
第15回目	総まとめ	まとめ、実技習熟度チェック
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法評価学演習Ⅰ (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	丹野 晴臣
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり				
到達目標	臨床検査実習に向けて、情報収集、面接、検査・測定などの知識と技術を習得する				
履修上の注意	学科試験、提出課題、出席状況および態度を含めて評価する				
成績評価方法	筆記試験および実技試験				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法 (神陵文庫)				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	評価学概説	評価および検査の意味、理学療法の中の位置づけ、実施方法
第2回目	検査演習 ①	バイタルサイン
第3回目	検査演習 ②	形態計測
第4回目	検査演習 ③	反射検査
第5回目	検査演習 ④	関節可動域測定
第6回目	検査演習 ⑤	徒手筋力検査法
第7回目	検査演習 ⑥	実技試験 中間テスト
第8回目	検査演習 ⑦	身体介助
第9回目	検査演習 ⑧	感覚検査
第10回目	検査演習 ⑨	片麻痺機能検査
第11回目	検査演習 ⑩	協調性検査
第12回目	検査演習 ⑪	動作分析、歩行分析
第13回目	検査演習 ⑫	高次脳機能検査
第14回目	検査演習 ⑬	ADL・QOL検査
第15回目	検査演習 ⑭	実技総復習
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法評価学演習Ⅱ (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	丹野 晴臣
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり				
到達目標	評価に必要な臨床医学の知識を総復習する				
履修上の注意	医療人の必須スキルとして真剣に授業に臨むこと				
成績評価方法	小テスト・定期試験				
教科書	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学（医歯薬出版）				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	病理学	創傷治癒、炎症、感染、腫瘍、病理所見、病因
第2回目	内科学(内部障害) ①	循環器疾患、代謝性疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝疾患
第3回目	内科学(内部障害) ②	内分泌疾患、膠原病・自己免疫疾患、泌尿器疾患、血液疾患、薬物療法
第4回目	骨関節疾患と臨床医学 ①	骨折、骨髄腫、関節リウマチ、脊椎疾患、変形性関節症
第5回目	骨関節疾患と臨床医学 ②	四肢血行障害、小児整形外科疾患、脊髄損傷、切断、骨粗鬆症、その他
第6回目	中枢神経・末梢神経・筋の障害と臨床医学 ①	脳血管障害、高次脳機能障害、変性疾患、嚥下障害、正常圧水頭症、運動ニューロン障害
第7回目	中枢神経・末梢神経・筋の障害と臨床医学 ②	脱髄性疾患、末梢神経障害、神経筋接合部疾患、筋ジストロフィー、複合問題、運動障害
第8回目	精神障害と臨床医学 ①	統合失調症、気分(感情)障害、認知症、せん妄、依存症、薬物療法
第9回目	精神障害と臨床医学 ②	てんかん、神経性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害、生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリティ障害、小児期の精神および心理の発達障害、精神疾患、自殺
第10回目	臨床心理学 ①	防衛機制、心理療法、
第11回目	臨床心理学 ②	心理検査、学習理論、心理発達
第12回目	小児・老年期の障害と臨床医学およびリハビリテーション医学	廃用症候群、高齢者にみられる変化・老年症候群、小児の障害、健康や生活機能の評価・指標、リハビリテーション医療・ガイドライン、予防医学(一次予防・二次予防・三次予防)
第13回目	リハビリテーション概論	ユニバーサルデザイン、国際生活機能分類(ICF)、患者心理・障害受容、クリニカルパス、身体障害者障害程度等級表、法規・関連制度
第14回目	総合演習 ①	国家試験および模試過去問による実践練習 ①
第15回目	総合演習 ②	国家試験および模試過去問による実践練習 ②
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	運動療法学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	谷 裕武
実務経験	理学療法士として15年以上の実務経験あり				
到達目標	理学療法における運動療法の基礎知識の理解 理学療法における、代表疾患に対する運動療法を理解し、専門領域への導入をはかること。				
履修上の注意	座学・演習を交える				
成績評価方法	中間試験(40%)・定期試験(50%)・提出物(10%)・受講態度(遅刻、早退:0.5点 欠席:1点 減点)				
教科書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 運動療法 中山書店				
参考書	都度、配布				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	運動療法概念	運動療法の歴史 運動療法の定義・目的・対象疾患
第2回目	運動療法基礎 ①	関節の構造と運動 随意運動と運動制御 ①
第3回目	運動療法基礎 ②	関節の構造と運動 随意運動と運動制御 ②
第4回目	運動療法基礎 ③	関節の構造と運動 随意運動と運動制御 ③
第5回目	運動の種類 ①	運動をおこす力による分類、筋収縮の様式による分類 ①
第6回目	運動の種類 ②	運動をおこす力による分類、筋収縮の様式による分類 ②
第7回目	第1週目～第6週目まとめ	第1週目～第6週目:確認試験
第8回目	基本的な運動療法 ①	関節可動域運動 ①
第9回目	基本的な運動療法 ②	関節可動域運動 ②
第10回目	基本的な運動療法 ③	筋力増強運動 ①
第11回目	基本的な運動療法 ④	筋力増強運動 ②
第12回目	基本的な運動療法 ⑤	持久力増強運動 ①
第13回目	基本的な運動療法 ⑥	持久力増強運動 ②
第14回目	基本的な運動療法 ⑦	協調性運動
第15回目	講義まとめ	講義復習
備考	実技時:ジャージ着用 装飾品外すこと。講義の進行程度によって、上記予定を変更することがある。	

令和7年度 シラバス

科目名	義肢装具学 I (30)時間	前期	第 I 学科2学年	講 師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として19年以上の実務経験あり				
到達目標	中枢・末梢神経疾患、骨関節疾患、神経筋疾患などにより運動機能障害を呈した人に対して適切な装具療法が実施できるよう、装具の基本的な構造と機能を理解し、疾患や障害に適した装具の選択や装具療法を理解する。				
履修上の注意	毎授業の復習をしっかりと行うこと				
成績評価方法	筆記試験100%				
教科書	義肢装具のチェックポイント(医学書院)				
参考書	必要に応じて資料配布				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	装具学総論	装具療法の基本、3点固定の原理、作成の流れ
第2回目	下肢装具の部品とその機能	下肢装具を構成する各関節の継手や足部などの基本的部位名称・構造・機能
第3回目	短下肢装具	短下肢装具の目的や対象療法、種類、基本的な構造や機能
第4回目	長下肢装具・股装具・膝装具	長下肢装具・股装具・膝装具の目的や対象疾患、種類、基本的な構造や機能
第5回目	靴型装具	靴型装具の目的や基本的な構造、各種補正
第6回目	下肢装具のチェックアウト ①	下肢装具の適合、チェックアウト項目とその方法 ①
第7回目	下肢装具のチェックアウト ②	下肢装具の適合、チェックアウト項目とその方法 ②
第8回目	体幹装具・側弯症装具	体幹装具・側弯装具の目的や対象疾患、種類、基本的な構造や機能
第9回目	上肢装具と自助具	上肢装具と自助具の目的や対象疾患、種類、基本的な構造や機能
第10回目	車椅子・歩行補助具	車椅子の種類や構造、部品、チェックポイント、各歩行補助具の種類や機能
第11回目	疾患別装具の処方 ① 脳卒中片麻痺の装具	脳卒中片麻痺の病態と装具の適応
第12回目	疾患別装具の処方 ② 整形外科疾患の装具	整形外科疾患に用いられる装具の種類や構造
第13回目	疾患別装具の処方 ③ 関節リウマチの装具	関節リウマチに用いられる装具の種類や構造
第14回目	疾患別装具の処方 ④ 対麻痺・小児の装具	対麻痺や小児に用いられる装具の種類や構造
第15回目	まとめ	第1回～14回までのまとめ
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	日常生活活動学 (30)時間	前期	第 I 学科2学年	講 師	鎌田 啓太
実務経験	理学療法士として5年以上の実務経験あり				
到達目標	疾患別における日常生活活動について学ぶ				
履修上の注意	忘れ物をしない				
成績評価方法	定期試験 筆記試験 (100%)				
教科書	PTOTビジュアルテキスト ADL(羊土社)				
参考書	適宜プリント配布				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	ADLの概念と重要性	ADLとは何か、その構成要素、ADL評価の目的と意義、ICFの概念
第2回目	評価スケールと方法	基本的ADL(BADL)と手段的ADL(IADL)、代表的なADL評価スケール、評価における観察と問診のポイント
第3回目	B.I	B.Iの理解と実践
第4回目	FIM	FIMの理解と実践
第5回目	確認テスト	B.I・FIM
第6回目	B.I・FIM	B.I・FIM
第7回目	疾患別ADL①	脳血管疾患
第8回目	疾患別ADL②	脳血管疾患 実技
第9回目	疾患別ADL③	人工関節全置換術
第10回目	疾患別ADL④	関節リウマチ
第11回目	疾患別ADL⑤	パーキンソン病
第12回目	疾患別ADL⑥	脊椎疾患 下肢骨折
第13回目	疾患別ADL⑦	内部疾患 ①呼吸器疾患
第14回目	疾患別ADL⑧	内部疾患 ②心疾患
第15回目	試験対策	試験対策
備考	進行の程度により内容の変更の可能性あり。	

令和7年度 シラバス

科目名	脳血管障害理学療法学 (30/60)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	丹野 晴臣
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり				
到達目標	脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な理学療法の考え方を理解する。				
履修上の注意	私語など他者の迷惑になる行為は行わないこと。				
成績評価方法	学科試験100%(出席状況により加点、減点有り)				
教科書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ(中山書店)				
参考書	適時配布資料あり				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	中枢神経系理学療法の基礎知識①	総論/中枢神経系の構造と基礎知識 ①
第2回目	中枢神経系理学療法の基礎知識②	総論/中枢神経系の構造と基礎知識 ②
第3回目	運動と感覚の中枢機能と構造①	基本的な解剖知識と病巣と症状の関連性 ①
第4回目	運動と感覚の中枢機能と構造②	基本的な解剖知識と病巣と症状の関連性 ②
第5回目	脳損傷の定義と病態①	脳血管障害の分類(NINDS－Ⅲ)による病態説明 ①
第6回目	脳損傷の定義と病態②	脳血管障害の分類(NINDS－Ⅲ)による病態説明 ②
第7回目	脳損傷とその回復①	脳血管障害後の機能回復の特徴 ①
第8回目	脳損傷とその回復②	脳血管障害後の機能回復の特徴 ②
第9回目	脳血管障害における医学管理①	脳血管障害に対する急性期治療 ①
第10回目	脳血管障害における医学管理②	脳血管障害に対する急性期治療 ②
第11回目	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ①	脳血管障害リハビリテーションの流れ ①
第12回目	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ②	脳血管障害リハビリテーションの流れ ②
第13回目	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴①	脳血管障害後片麻痺患者に生じる[身体構造と機能] ①
第14回目	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴②	脳血管障害後片麻痺患者に生じる[身体構造と機能] ②
第15回目	脳血管障害後片麻痺患者に対する評価①	脳血管障害患者を理解する前に ICFに基づく障害理解 ①
備考	日程については、講義の進捗度合いによって、上記予定を変更することがあります。	

令和7年度 シラバス

科目名	骨関節疾患理学療法学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	谷 裕武
実務経験	理学療法士として13年以上の実務経験あり				
到達目標	整形外科疾患に対する理解と適切な理学療法プログラムを立案できる				
履修上の注意	各講義後に必ず見直しをすること 教科書は授業開始前に準備して着席しておくこと				
成績評価方法	筆記試験(60%) 小テスト(40%)				
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ/Ⅱ(中山書店)				
参考書	適宜プリント 解剖生理の本等				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	組織再生・修復 1・2章	組織再生と修復の理解 炎症の評価と理学療法実施上の注意点を理解する
第2回目	骨折と脱臼総論～治療 3・4章	骨折と脱臼の病態・合併症の理解 骨折のリスク管理とADL指導の理解
第3回目	高齢者の骨折 5～7章★	高齢者の骨折における発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第4回目	変形性股・膝関節症 8～11章★	変形性関節症の病態・各病期の理解 病気に応じた適切な治療の理解
第5回目	関節リウマチ 12・13章	RA・特定疾患の理解と評価・治療・ADL指導とリスク管理の理解
第6回目	末梢神経障害 14・15章	病態・原因・神経走向・評価～治療の理解
第7回目	Ⅰ部小テストとまとめ	★印を中心にⅠ部テキストのおさらい テスト 20点
第8回目	頸部疾患総論～治療 16・17章★	頸部疾患の病態理・症状・評価～治療・リスク管理の理解
第9回目	腰部疾患総論～治療 18・19章★	腰部疾患の病態理・症状・評価～治療・リスク管理の理解
第10回目	脊椎疾患総論～治療 20・21章	術式の理解と術式に応じた評価～治療・リスク管理・禁忌事項の理解
第11回目	肩関節疾患総論～治療 22～25章★	肩関節疾患における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第12回目	膝靱帯半月板損傷総論～治療 26～28章	靱帯半月板損傷における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第13回目	捻挫と肉離れ総論～治療 29・30章	スポーツ外傷における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第14回目	Ⅱ部小テストとまとめ	★印を中心にⅡ部テキストのおさらい テスト20点
第15回目	症例グループワーク	症例別に運動プログラムを立案する
備考	変更時連絡あり	

令和7年度 シラバス

科目名	神経・筋疾患理学療法学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	吉田 峻
実務経験	理学療法士として5年以上の実務経験あり				
到達目標	主要な神経筋疾患の障害特性を理解し、その障害評価と機能・能力障害に対する運動療法を理解する。				
履修上の注意	講義を中心に、必要に応じて実技を実施する。				
成績評価方法	学科試験(100%) 出席状況も加味する				
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ(中山書店)				
参考書	特になし				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	神経・筋疾患について 概論	神経系、障害部位について
第2回目	変性疾患(パーキンソン病)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第3回目	小脳疾患	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第4回目	筋疾患(筋ジストロフィー)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第5回目	変性疾患(ALS)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第6回目	脱髄疾患 (多発性硬化症)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第7回目	末梢神経疾患 (ニューロパチー)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第8回目	脱髄疾患 (ギランバレー症候群)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第9回目	末梢神経損傷疾患	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第10回目	脳性麻痺	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第11回目	筋疾患 (多発性筋炎、皮膚筋炎)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第12回目	神経筋接合部疾 (重症筋無力症)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第13回目	脳血管障害	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第14回目	その他疾患	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第15回目	まとめ	演習
備考	内容変更の可能性あり	

令和7年度 シラバス

科目名	心・末梢循環理学療法学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	吉田 峻
実務経験	理学療法士として5年以上の実務経験あり				
到達目標	心・末梢循環の疾患に対する理学療法学について学ぶ				
履修上の注意	医療人の必須スキルとして真剣に授業に臨むこと				
成績評価方法	小テスト・定期試験				
教科書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環代謝				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	循環 ①	心臓リハビリテーションの概要
第2回目	循環 ②	虚血性心疾患の理学療法
第3回目	循環 ③	心不全の理学療法
第4回目	循環 ④	大動脈疾患の理学療法
第5回目	循環 ⑤	末梢動脈疾患の理学療法
第6回目	循環 ⑥	深部静脈血栓の理学療法
第7回目	循環 ⑦	不整脈と心電図の診かた
第8回目	循環 ⑧	運動処方(体力テスト,Borg指数を含む)
第9回目	循環 ⑨	再発予防とチーム医療
第10回目	循環 ⑩	一次救命処置
第11回目	代謝 ①	代謝障害
第12回目	代謝 ②	エネルギー消費量
第13回目	代謝 ③	運動強度とプログラム
第14回目	代謝 ④	糖尿病の治療と運動療法
第15回目	代謝 ⑤	腎疾患と理学療法
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	地域理学療法学 (30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講 師	橋本 貴之
実務経験	理学療法士として14年以上の実務経験あり				
到達目標	移り行く現代社会に適応できる地域理学療法学としての幅広い知識を学び・地域の対象者に、アイデアを 駆使した実践的取り組みができるようになる。				
履修上の注意	一方的に講義を聴く受動的な授業方針にならないようにする。能動的で自主性に富んだ授業をめざす。				
成績評価方法	中間試験(20点)・定期試験(80点) 合計100点 60点以上で単位取得				
教科書	15レクチャーシリーズ 地域理学療法学(中山書店)				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	地域理学療法学の概念	教科書に基づき、「地域理学療法とは」概念を学ぶ
第2回目	地域における理学療法士の役割	日本の高齢者の動向・診療報酬について(動画より)
第3回目	疾患と障害の理解①	小児期・成人期・老年期の生活の理解を学ぶ
第4回目	疾患と障害の理解②	神経難病・パーキンソン病・ALSの生活の理解を学ぶ
第5回目	介護保険	訪問・通所リハビリテーションについて動画・発表を通して学びを深める
第6回目	各論①	多職種連携・障害者総合支援法について
第7回目	各論②	サルコペニア・フレイル・転倒・認知症について
第8回目	各論③	延命治療・看取り・コロナ(動画よりGDにて学ぶ)
第9回目	各論④	「小児看取り」動画を通して命について考える
第10回目	事例検討・演習①	模擬症例① 一般的情報・社会的情報・医学的情報収集
第11回目	事例検討・演習②	模擬症例② FIMへの考察・検査項目の列挙
第12回目	個別支援の技術	本館3Fを利用し、福祉用具と住環境の整備について学ぶ
第13回目	事例検討・演習③	模擬症例③ 神経難病・及び(ICF)への検討
第14回目	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて動画・発表を通して学びを深める
第15回目	まとめ	地域理学療法学領域(リハビリテーション概論)国家試験問題
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	臨床検査実習 (90)時間	前期	第 I 学科2学年	講 師	専任教員 臨床実習指導者
到達目標	1. 適切な時間配分のもとで必要な情報を問診その他で取得し記述する。 2. 疾患に適応する検査項目を選び安全かつ正確に実施し記録する。 3. 検査の過程に適宜必要な技能の行使について指導を受け、正確度を高める。 4. 検査のために必要な介助技術を安全に実践する(主に起き上がり、座位、立位、移乗) 5. 時間配分や患者様への配慮(時間、気遣いなど)のもとで各検査項目を実行し、適切に記録する。 6. 報告・連絡・相談の実際を体験し、実習遂行の円滑化に留意する。				
履修上の注意	各実習施設に応じて準備すること。				
成績評価方法	実習前評価[OSCE](20%)、実習施設評価(60%)、実習後評価[実習報告会](20%)				
教科書	特になし				
参考書	購入したすべての教科書				

講義計画・講義内容	
1. 実習は臨床実習施設において2週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、学校で学んだ評価技術を臨床の現場で体験する。 3. 2年次前期までの授業で学んだ知識や技術を実際の臨床現場で体験し、理解を深める。 4. 学内においては実習前に実習前実技試験、実習終了後に実習報告会(発表)を行う。 臨床検査実習では、既習範囲の基本的検査および測定の実施法、選択について、実際の症例に対して実施する。同時に患者へのアプローチや問診、検査方法(手順)などの技能および態度を学ぶ。	
備考	

令和7年度 シラバス

科目名	一般臨床医学 (30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	非常勤講師
到達目標	医学一般に関する学識を得る				
履修上の注意	復習は各自で行うこと				
成績評価方法	試験100%				
教科書	PT・OTのための一般臨床医学(医歯薬出版)				
参考書	特になし				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	救急救命学、外科学 1	救命救急医療、外科総論 1
第2回目	救急救命学、外科学 2	救命救急医療、外科総論 2
第3回目	脳神経外科学 1	脳神経外科概論 1
第4回目	脳神経外科学 2	脳神経外科概論 2
第5回目	皮膚科学 1	皮膚疾患 1
第6回目	皮膚科学 2	皮膚疾患 2
第7回目	泌尿器科学 1	泌尿器・生殖器疾患 1
第8回目	泌尿器科学 2	泌尿器・生殖器疾患 2
第9回目	産婦人科学 1	婦人科・産科疾患 1
第10回目	産婦人科学 2	婦人科・産科疾患 2
第11回目	眼科学、耳鼻咽喉科学 1	眼疾患、耳鼻咽喉科疾患 1
第12回目	眼科学、耳鼻咽喉科学 2	眼疾患、耳鼻咽喉科疾患 2
第13回目	総合診療科学 1	特殊な医学、プライマリ・ケア 1
第14回目	総合診療科学 2	特殊な医学、プライマリ・ケア 2
第15回目	まとめ	その他疾患
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	内科学 (30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	非常勤講師
到達目標	代表的な内科疾患の病態生理・症状・治療を理解する				
履修上の注意	復習は各自で行うこと				
成績評価方法	試験100%				
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(医学書院)				
参考書	特になし				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	総論 1	内科学概論、内科診断学 1
第2回目	総論 2	内科学概論、内科診断学 2
第3回目	循環器 1	循環器疾患総論、各論 1
第4回目	循環器 2	循環器疾患総論、各論 2
第5回目	呼吸器 1	呼吸器疾患総論、各論 1
第6回目	呼吸器 2	呼吸器疾患総論、各論 2
第7回目	消化器、肝・胆・膵 1	消化器疾患、肝・胆・膵疾患 総論、各論 1
第8回目	2消化器、肝・胆・膵	消化器疾患、肝・胆・膵疾患 総論、各論 2
第9回目	血液、代謝 1	血液疾患、代謝疾患 総論、各論 1
第10回目	2血液、代謝	血液疾患、代謝疾患 総論、各論 2
第11回目	内分泌、腎 1	内分泌疾患、腎疾患 総論、各論 1
第12回目	2内分泌、腎	内分泌疾患、腎疾患 総論、各論 2
第13回目	免疫・アレルギー、膠原病 1	免疫・アレルギー性疾患、膠原病 総論、各論 1
第14回目	免疫・アレルギー、膠原病 2	免疫・アレルギー性疾患、膠原病 総論、各論 2
第15回目	その他	その他の疾患と総復習
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	整形外科学 (60)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	非常勤講師
到達目標	理学療法士として運動器に関わる疾患の診断・治療・リハビリテーションについて学習・理解する				
履修上の注意	講義へ積極的に参加してください				
成績評価方法	出席状況(規定時間に順ずる)、学科試験(80%)、レポート提出(20%)				
教科書	病気がみえるvol.11 運動器・整形外科(メディックメディア)				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1・2回目	整形外科学の基礎科学	オリエンテーション、骨の発生・構造および病態生理、関節・骨格筋の構造や病態生理、神経系の基本構造
第3・4回目	整形外科診断学総論(1)	運動器の基本的な評価法、神経学的な評価法、検査
第5・6回目	整形外科治療学総論(2)	保存療法、手術療法
第7・8回目	疾患総論(1)	軟部組織・骨・関節の感染、関節リウマチとその類縁疾患
第9・10回目	疾患総論(2)	退行性・代謝性慢性関節疾患、四肢循環障害疾患、先天性骨系統疾患・先天異常症候群
第11・12回目	疾患総論(3)	骨粗鬆症を含む代謝性疾患、骨・軟部腫瘍について
第13・14回目	疾患総論(4)	神経疾患・筋疾患、ロコモティブシンドローム・サルコペニア
第15・16回目	疾患各論(1)	肩関節・肘関節・手関節・手指
第17・18回目	疾患各論(2)	頸椎・胸椎・腰椎
第19・20回目	疾患各論(3)	股関節・膝関節・足関節・足趾
第21・22回目	外傷総論	軟部組織損傷の総論、骨折・脱臼の総論
第23・24回目	外傷各論(1)	上肢の外傷、下肢の外傷
第25・26回目	外傷各論(2)	脊椎・脊髄損傷、末梢神経損傷、スポーツ傷害
第27・28回目	リハビリ	運動器疾患のリハビリテーション、四肢切断と義足及び補装具について
第29・30回目	まとめ	整形外科学のまとめ
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	精神医学 (30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	非常勤講師
到達目標	精神医学概要の理解 症状、主要疾患の理解				
履修上の注意	配布資料に講義内容を追加して理解する				
成績評価方法	100% 筆記テスト(客観テスト)				
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学(医学書院)				
参考書	あればその都度紹介します				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	精神疾患Ⅰ	精神疾患の分類・症状・検査Ⅰ
第2回目	精神疾患Ⅱ	精神疾患の分類・症状・検査Ⅱ
第3回目	統合失調症Ⅰ	統合失調症の診断・症状・治療Ⅰ
第4回目	統合失調症Ⅱ	統合失調症の診断・症状・治療Ⅱ
第5回目	気分障害Ⅰ	気分障害の診断・症状・治療Ⅰ
第6回目	気分障害Ⅱ	気分障害の診断・症状・治療Ⅱ
第7回目	神経症Ⅰ	神経症の診断・症状・治療Ⅰ
第8回目	神経症Ⅱ	神経症の診断・症状・治療Ⅱ
第9回目	小児期精神疾患Ⅰ	小児期・青年期の精神障害Ⅰ
第10回目	小児期精神疾患Ⅱ	小児期・青年期の精神障害Ⅱ
第11回目	睡眠関連障害	睡眠のしくみと睡眠障害
第12回目	物質関連傷害	薬物依存等
第13回目	器質性精神障害Ⅰ	症状性精神疾患、認知症Ⅰ
第14回目	器質性精神障害Ⅱ	症状性精神疾患、認知症Ⅱ
第15回目	てんかん	てんかんとてんかん発作
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	脊髄損傷理学療法学 (30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として14年以上の実務経験あり				
到達目標	脊髄損傷の障害特性を理解し、その障害評価と機能・能力障害に対する運動療法を理解する。				
履修上の注意	講義を中心に、必要に応じて実技を実施する。				
成績評価方法	学科試験(100%) 出席状況も加味する				
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ(中山書店)				
参考書	特になし				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	脊髄損傷の病態①	脊髄損傷の原因について
第2回目	脊髄損傷の病態②	外傷性脊髄損傷の疫学について
第3回目	脊髄損傷の病態③	脊髄損傷の随伴症状と合併症について
第4回目	脊髄損傷の評価①	脊髄損傷の神経学的評価を理解する
第5回目	脊髄損傷の評価②	脊髄損傷の神経学的損傷レベルを理解する
第6回目	脊髄損傷の評価③	脊髄損傷高位別の最終獲得機能を理解する
第7回目	脊髄損傷の評価④	急性期における頸髄損傷の予後予測について
第8回目	脊髄損傷に対する理学療法①	脊髄損傷に対する理学療法の進め方
第9回目	脊髄損傷に対する理学療法②	理学療法士の視点について(急性期)
第10回目	脊髄損傷に対する理学療法③	理学療法士の視点について(回復期)
第11回目	脊髄損傷に対する理学療法④	ADL獲得のためのトレーニングについて
第12回目	理学療法の実際①	脊髄損傷の評価から理学療法の流れを理解する
第13回目	理学療法の実際②	完全運動麻痺の評価から理学療法までの流れを理解する
第14回目	理学療法の実際③	不全運動麻痺の評価から理学療法までの流れを理解する
第15回目	理学療法の実際④	褥瘡を有する脊髄損傷者の理学療法を理解する
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	小児疾患理学療法学 (30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	非常勤講師
到達目標	小児疾患の理解を深め、国家試験レベルの知識を学ぶ。				
履修上の注意	確認小テストを必要に応じて行います。				
成績評価方法	後期試験、小テスト、提出物を総合的に評価します。				
教科書	イラストでわかる小児理学療法学(医歯薬出版)				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	オリエンテーション	自己紹介
第2回目	人間発達	0～2才までの運動発達
第3回目	脳性麻痺(1)	脳性麻痺総論
第4回目	脳性麻痺(2)	痙直型(両麻痺)
第5回目	脳性麻痺(3)	痙直型(四肢麻痺)
第6回目	脳性麻痺(4)	痙直型(片麻痺)
第7回目	脳性麻痺(5)	アトーゼ型
第8回目	脳性麻痺(6)	重度脳性麻痺
第9回目	小児整形疾患	ペルテス病、車イス、装具
第10回目	筋ジストロフィー	デュシャンヌ型
第11回目	ダウン症候群	ファロー4徴候
第12回目	ハイリスク児	発達フォロー
第13回目	小児理学療法の特異性	成長と発達、小児理学療法評価
第14回目	発達障害(1)	発達障害の種類、療育
第15回目	発達障害(2)	療育の実際
備考		

令和7年度 シラバス

	呼吸障害理学療法学 (30)時間	後期	第 I 学科2学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として14年以上の実務経験あり				
到達目標	呼吸器の解剖や各疾患の特徴、理学療法が理解できる。 その他、内部疾患(代謝障害、がん)についても概要とリハビリテーションを理解する。				
履修上の注意	呼吸器、腎臓、肝臓に関する解剖・生理を復習しておくこと。				
成績評価方法	定期試験80% 出席状況・授業への取り組み 20%(合計100%)				
教科書	15レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学 呼吸(中山書店)				
参考書	国試及び模試の過去問題				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	内部障害の定義	呼吸器の解剖、生理学、評価について
第2回目	呼吸不全について	概要、症状、病態、疾患(COPD、IPなど)について
第3回目	呼吸リハビリテーション	呼吸リハビリテーションの概要、評価、プロセスについて
第4回目	呼吸リハビリテーション	呼吸リハビリテーションにおける運動療法、日常生活指導について
第5回目	人工呼吸器	人工呼吸器の役割、設定について
第6回目	排痰と吸引	排痰と吸引について
第7回目	まとめ・復習(呼吸機能障害)	テストとその解説にて理解度の確認、知識の整理を行う。
第8回目	糖尿病	糖尿病の概要について
第9回目	糖尿病	糖尿病に関するリハビリテーション、日常生活指導について
第10回目	脂質異常	脂質異常の概要について
第11回目	まとめ・復習(糖尿病・脂質異常)	テストとその解説にて理解度の確認、知識の整理を行う。
第12回目	がん	がんの概要について
第13回目	がん	がんに関するリハビリテーション、日常生活指導について
第14回目	まとめ・復習(がん)	テストとその解説にて理解度の確認、知識の整理を行う
第15回目	復習・試験対策	呼吸器、脂質異常、がんについて復習する
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	脳血管障害理学療法学 (30/60)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり				
到達目標	脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な理学療法の考え方を理解する。				
履修上の注意	私語など他者の迷惑になる行為は行わないこと。				
成績評価方法	学科試験100%(出席状況により加点、減点有り)				
教科書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ(中山書店)				
参考書	適時配布資料あり				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	脳血管障害後片麻痺患者に対する評価②	脳血管障害患者を理解する前に ICFに基づく障害理解 ②
第2回目	脳血管障害片麻痺患者に対する評価③	評価の実際 姿勢分析 ①
第3回目	脳血管障害片麻痺患者に対する評価④	評価の実際 姿勢分析 ②
第4回目	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング①	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング概略 ①
第5回目	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング②	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング概略 ②
第6回目	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング③	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング 寝返り・起き上がり ①
第7回目	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング④	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング 寝返り・起き上がり ②
第8回目	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング⑤	歩行障害概要 ①
第9回目	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング⑥	歩行障害概要 ②
第10回目	脳血管障害における合併症①	脳血管障害による肩関節痛 ①
第11回目	脳血管障害における合併症②	脳血管障害による肩関節痛 ②
第12回目	高次脳機能障害と理学療法①	高次脳機能障害 ①
第13回目	高次脳機能障害と理学療法②	高次脳機能障害 ②
第14回目	脳血管障害における理学療法の実際①	症例から学ぶ理学療法の実際 ①
第15回目	脳血管障害における理学療法の実際②	症例から学ぶ理学療法の実際 ②
備考	日程については、講義の進捗度合いによって、上記予定を変更することがあります。	

令和7年度 シラバス

科目名	高齢者理学療法学 (30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり				
到達目標	高齢者の特性と理学療法プログラムに立案ができる				
履修上の注意	座学・演習を交え、私語など他の学生及び講義進行の迷惑にならないよう留意すること				
成績評価方法	中間試験(40%)・定期試験(50%)・提出物(10%)・受講態度(遅刻、早退:0.5点 欠席:1点 減点)				
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学(メジカルビュー社)				
参考書	都度、配布				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	高齢者の特徴	高齢者の定義
第2回目	身体的特徴と転倒	認知症鑑別疾患 転倒
第3回目	心身機能の変化	高齢者の心身の変化と特徴
第4回目	第1章試験とポイントまとめ	試験10点/復習① 事例集
第5回目	高齢者の身体機能評価	身体機能評価 ADL評価
第6回目	高齢者の認知機能評価とアプローチ	精神機能とQOL+(P293[6]) 認知症理学療法
第7回目	第2章試験とポイントまとめ	試験10点/復習② 事例集
第8回目	高齢者の理学療法①	筋持久力バランストレーニング
第9回目	高齢者の理学療法②	身体活動促進アプローチ
第10回目	転倒と骨折	転倒の現状と予防アプローチ 身体環境改善アプローチ
第11回目	第3章試験とポイントまとめ	試験10点/復習③ 事例集
第12回目	高齢者の運動療法①	トレーニング効果のエビデンス
第13回目	施設利用者/障害者の運動療法	施設利用者の身体機能と運動療法
第14回目	訪問リハのエビデンス	各疾患における訪リハの実際とエビデンス
第15回目	第4章試験とポイントまとめ	試験10点/復習④ 事例集
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	スポーツ障害理学療法学 (30)時間	後期	第 I 学科2学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり				
到達目標	代表的なスポーツの障害と治療の実態を理解する。 パフォーマンスの向上まで理学療法より学習する。				
履修上の注意	グループディスカッション等を用い、受動的にならず、能動的に授業に参加できること				
成績評価方法	期末試験(80%)、中間試験(20%)				
教科書	授業用資料配布、毎回				
参考書					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	スポーツ理学療法の概念	スポーツ理学療法の定義 プロスポーツとPTの関わり、教科書
第2回目	リハビリテーションの基礎知識	一般的なスポーツ外傷・障害の基礎知識やRICE療法など
第3回目	理学療法評価とスポーツ①	メディカルチェック、関節可動域検査・形態測定からのスポーツ評価
第4回目	理学療法評価とスポーツ②	スポーツ損傷 30種 より選択(個人・班)まとめ
第5回目	スポーツ現場の治療	スポーツ損傷 30種 発表会(個人・班)
第6回目	中間まとめ	確認テスト
第7回目	各論①	スポーツと「頸椎・肩関節疾患」
第8回目	各論②	スポーツと「腰椎・骨盤疾患」
第9回目	各論③	スポーツと「膝関節疾患」
第10回目	各論④	スポーツと「下腿・足関節疾患」
第11回目	各論⑤	スポーツと「肘・手関節疾患」
第12回目	各論⑥	スポーツと「内部疾患」
第13回目	実技(模擬症例)①	症例検討・評価法・治療法(関節可動域訓練)
第14回目	実技(模擬症例)②	実技 ストレッチ・マッサージ・テーピング
第15回目	国家試験関連 まとめ	スポーツ理学療法分野 国家試験問題 および解説 まとめ
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法学総合演習Ⅰ	(30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり					
到達目標	理学療法プロセスの内容を理解する					
履修上の注意	私語は控え主体的に参加すること					
成績評価方法	症例発表、小テスト、実技試験などを総合的に判定する					
教科書	配布資料にて実施する					
参考書						

回 数	項 目	授業内容
第1回目	理学療法プロセス	理学療法プロセスの確認 OSCEテストの説明
第2回目	グループ学習 ①	ROM実技演習
第3回目	グループ学習 ②	MMT実技演習
第4回目	グループ学習 ③	実技演習
第5回目	グループ学習 ④	筋・骨の触診実技演習
第6回目	グループ学習 ⑤	感覚検査・反射検査実技演習
第7回目	グループ学習 ⑥	失調検査 立位バランス検査実技演習
第8回目	グループ学習 ⑦	実技演習
第9回目	グループ学習 ⑧	脳卒中麻痺側運動機能評価/脳神経検査 実技演習
第10回目	グループ学習 ⑨	バイタル測定
第11回目	グループ学習 ⑩	実技演習
第12回目	グループ学習 ⑪	グループ内で情報収集・検査測定①
第13回目	グループ学習 ⑫	検査測定②・統合と解釈・問題点抽出・ゴール設定
第14回目	実技試験 ①	治療プログラムの実演 レジユメの作成・提出
第15回目	実技試験 ②	確認試験
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	生活環境学 (30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり				
到達目標	神経学的検査の理解と実技の習得				
履修上の注意	実技を行う場合は実習着を着用しておくこと				
成績評価方法	定期試験70%、小テスト・出席状況・授業への取り組み30%(合計100%)				
教科書	資料配布				
参考書	ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) 理学療法評価学(金原出版)				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	日常生活動作(ADL)、ICF、QOLの概念と構造	日常生活動作(ADL)、ICF、QOLの概念・背景を理解する
第2回目	ADL評価の歴史 臨床現場でのADL評価	ADLの歴史の理解・臨床現場でのADLイメージ想起を行える
第3回目	ADLと動作分析の関連 (歩行・立ち上がり)	トップダウン・ボトムアップ課程をADL評価の側面より理解する
第4回目	バーサル・インデックスの採点	模擬症例をたて、実際に点数付ける。フィードバックより理解を深める
第5回目	FIM 運動項目・認知項目の採点	模擬症例をたて、実際に点数付ける。フィードバックより理解を深める
第6回目	補装具(杖・車いす関連)	移動補助具の特徴を説明できる
第7回目	起居・移動動作(座位姿勢保持、寝返り・起き上がり動作)	(実演)日常生活動作の再確認であり、自発的な意見で説明できる
第8回目	床上移動・車いす駆動・杖歩行・段差	(実演)日常生活動作の再確認であり、自発的な意見で説明できる
第9回目	小テスト (日常生活動作において)	知識・授業習得の確認
第10回目	食事動作・トイレ動作・入浴動作・整容動作・更衣動作	セルフケア動作の基礎的な認識を習得する
第11回目	福祉用具 ADLを支える機器、自助具の説明	症例に対し福祉用具などの選定をしてもらい、実用性を目指す
第12回目	中枢神経障害に対するADL指導	脳卒中、パーキンソン病、脊髄損傷(起き上がり・移乗方法)の習得
第13回目	運動器障害に対するADL指導	関節リウマチ、大腿骨頸部骨折、膝OA(立ち上がり・段差)の習得
第14回目	臨牀的(模擬)実例のグループワークでの対策 (退院→自宅復帰)	GD(グループディスカッション)コミュニケーションを取りゴールを導く
第15回目	国家試験問題の説明	過去問を通して理解を深める
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	リハビリテーション学Ⅱ (30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	専任教員
到達目標	理学療法プロセスのうち、評価結果から病態解釈を行い、問題点の抽出、目標設定、具体的な治療プログラムの設定について学ぶ。また、治療プログラムの設定における文献検索の方法も学ぶ。				
履修上の注意	グループで行う部分もあります。能動的に取り組むこと。				
成績評価方法	レポートと筆記試験で評価する。				
教科書	特になし				
参考書	必要に応じて機購入教科書を使用します。				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	オリエンテーション	理学療法プロセスについて、病態解釈～問題点の抽出～目標設定～治療プログラム作成までの流れ・プロセス
第2回目	整形外科的疾患(肩関節疾患) ①	肩関節疾患の評価結果の提示、病態解釈
第3回目	整形外科的疾患(肩関節疾患) ②	症例の病態解釈～目標設定、文献の検索
第4回目	整形外科的疾患(肩関節疾患) ③	文献の検索～治療プログラムの設定
第5回目	整形外科的疾患(股関節疾患) ①	股関節疾患の評価結果の提示、病態解釈
第6回目	整形外科的疾患(股関節疾患) ②	症例の病態解釈～目標設定、文献の検索
第7回目	整形外科的疾患(股関節疾患) ③	文献の検索～治療プログラムの設定
第8回目	整形外科的疾患(膝関節疾患) ①	膝関節疾患の評価結果の提示、病態解釈
第9回目	整形外科的疾患(膝関節疾患) ②	症例の病態解釈～目標設定、文献の検索
第10回目	整形外科的疾患(膝関節疾患) ③	文献の検索～治療プログラムの設定
第11回目	中枢神経疾患(片麻痺)①	片麻痺の評価結果の提示、病態解釈
第12回目	中枢神経疾患(片麻痺)②	症例の病態解釈～目標設定、文献の検索
第13回目	中枢神経疾患(片麻痺)③	文献の検索～治療プログラムの設定 ①
第14回目	中枢神経疾患(片麻痺)④	文献の検索～治療プログラムの設定 ②
第15回目	まとめ	これまでのまとめ
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	義肢装具学Ⅱ	(30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として19年以上の実務経験あり					
到達目標	切断のリハビリテーションにおいて、理学療法士は断端機能を改善させ、適合した義肢で日常生活動作が獲得できるように理学療法を実施する。そのために必要な切断リハビリテーションの流れや、義肢の基本的な構造や機能を学習する。					
履修上の注意	毎授業の復習をしっかりと行うこと					
成績評価方法	筆記試験100%					
教科書	義肢装具のチェックポイント(医学書院)					
参考書	必要に応じて配布する					

回 数	項 目	授業内容
第1回目	切断と義肢の基礎知識	四肢切断の原因と切断高位、切断術・術後管理、義肢の基本構造
第2回目	早期義肢装着法と義足適応の流れ	早期義肢装着法の流れを理解する
第3回目	大腿切断・膝離断の基本と義足構造	大腿切断・膝離断の断端の特徴とソケットの構造、部品の種類と構造
第4回目	大腿義足・膝義足のアライメント	大腿義足・膝義足のアライメントを理解する
第5回目	下腿切断・サイム切断の基本と義足構造	下腿切断・サイム切断の特徴と体重支持構造
第6回目	下腿義足・サイム義足のアライメント	下腿切断・サイム切断のアライメントを理解する
第7回目	股離断・片側骨盤切断等の義足構造とアライメント	股離断・片側骨盤切断・足部切断の特徴と構造
第8回目	下肢切断の評価 問題点の抽出とその統合	下肢切断の評価項目
第9回目	下肢切断の機能障害と義足装着前理学療法	評価に基づく機能予後予測
第10回目	切断原因疾患別・活動目的別の義肢と理学療法	切断原因となる疾患別の理学療法
第11回目	義足装着理学療法と応用動作	立位バランス訓練の重要性、歩行練習と起居動作・応用動作
第12回目	義手の分類と構造・機能	義手の機能的分類と構造・適合判定
第13回目	上肢切断の評価と治療	上肢切断のリハビリテーションの流れ
第14回目	義肢装具と支給体系とチームアプローチ	義肢の支給体制、チームアプローチ
第15回目	まとめ	第1回～14回のまとめ
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	理学療法評価学演習Ⅲ (30)時間	後期	第Ⅰ学科2学年	講 師	専任教員
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり				
到達目標	疾患に応じた評価項目の選定と正確に検査測定が出来る				
履修上の注意	忘れ物をしない 私語をしない				
成績評価方法	実技試験、筆記試験等総合的に判断する				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫)				
参考書	必要に応じて随時プリント配布				

回 数	項 目	授業内容
第1回目	オリエンテーション	講義の進め方と概要
第2回目	バイタルサイン	適切なオリエンテーションとバイタルサイン測定
第3回目	情報収集と情報の整理	情報収集 問診の実際 リスク管理
第4回目	検査測定演習 ①	関節可動域測定
第5回目	検査測定演習 ②	筋力測定
第6回目	検査測定演習 ③	形態測定 周径
第7回目	検査測定演習 ④	腱反射 感覚検査
第8回目	検査測定演習 ⑤	疼痛検査
第9回目	検査測定演習 ⑥	筋緊張検査 協調性検査
第10回目	検査測定演習 ⑦	上肢体幹下肢機能評価
第11回目	検査測定演習 ⑧	姿勢バランス検査 持久力検査
第12回目	確認テスト ①	関節可動域測定 MMT①
第13回目	確認テスト ②	関節可動域測定 MMT②
第14回目	確認テスト ③	形態測定 周径 反射 Brステージ 感覚①
第15回目	確認テスト ④	形態測定 周径 反射 Brステージ 感覚②
備考		

令和7年度 シラバス

科目名	臨床評価実習 (180)時間	後期	第 I 学科2学年	講 師	専任教員 臨床実習指導者
到達目標	1. 臨床見学実習、臨床検査実習の目標に加え、以下を満たせる様に努力する。 2. 評価に必要な介助技術を安全に実践する(臥位～立位、歩行)。 3. 検査・測定を多様な疾患に対してある程度の助言・指導の下に行える。 4. 検査結果から障害像を推察する。 5. 可能であれば予後予測や問題点の解決(プログラム立案など)も考える。				
履修上の注意	各実習施設に応じて準備すること。				
成績評価方法	実習前評価[OSCE](20%)、実習施設評価(60%)、実習後評価[実習報告会](20%)				
教科書	特になし				
参考書	購入したすべての教科書				

講義計画・講義内容	
1. 実習は臨床実習施設において4週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、学校で学んだ評価技術を臨床の現場で体験し、それぞれの評価・測定結果について考えていく。また、いくつかの検査結果を統合して、患者の障害像を推察していく。 3. 2年次までの授業で学んだ知識や技術を実際の臨床現場で体験し、理解を深める。 4. 学内においては実習前に実習前実技試験、実習終了後に実習報告会(発表)を行う。	
<p>臨床評価実習では、既習範囲の基本的検査及び測定の実施法、選択、解釈について、実際の対象者等を通じて実践的技能に高めていく。同時に患者等へのアプローチや問診、検査方法(手順)等の技能及び態度を学ぶ。</p> <p>また、臨床的問題を解決するために、理解している知識を総動員し、適切な情報を集め、問題を同定し仮説を証明するための計画を立てる。それによって得られた結果の解釈を分析・統合し、治療方針を決定できるように務める。対象者との信頼関係の構築や専門的知識の応用力を養う。</p>	
備考	